

2013年度 公開講座

# 現代の『聖地巡礼』考

～人はなぜ聖地を目指すのか～

■開講期間：平成25年10月21日(月)～12月16日(月)  
全8回 毎週月曜日開講 18:30～20:00  
■後援：札幌市教育委員会



## 講師紹介

(50音順)



**白井冬彦**  
(うすい・ふゆひこ)

北海道大学  
観光学高等研究センター 特任教授

京都大学法学部卒業後、21年間クボタに在籍。農業機械部門、新規事業関連部門に従事。その間、ワシントン大学の経営大学院にてMBA取得。シリコンバレーに駐在し、戦略提携、投資活動、ベンチャー立ち上げに参画。後に、半導体企業C-Cube Microsystems、機械設計ソフト企業SolidWorksの日本法人CEO。2009年に北海道大学大学院観光学創造専攻を修了し、神戸夙川学院大学の産官学地域連携センター長。2010年4月に北海道大学観光学高等研究センター特任教授に就任。



**内田純一**  
(うちだ・じゅんいち)

北海道大学  
観光学高等研究センター 准教授

博士(国際広報メディア)北海道大学。多摩大学経営情報学部卒業後、AFLAC勤務を経て北海道大学大学院国際広報メディア研究科助手に転じ、2007年4月より観光学高等研究センター准教授。観光・地域に関わる経営学が専門。著書に「地域イノベーション戦略:ブランディング・アプローチ」(芙蓉書房出版)ほか。



**清水賢一郎**  
(しみず・けんいちろう)

北海道大学大学院  
メディア・コミュニケーション研究院 准教授

東京大学大学院博士課程修了(中国語・中国文学専攻)。博士(文学)。最近の論文として、「風景の創造——中国文化に即して」(『大交流時代における観光創造』、2008)。「水という旅——生命のみなもとを遡って」(『まほら』68号、特集アクアツーリズム、2011)。訳書に、朱天心『古都』(国書刊行会、2000)、孫歌『竹内好という問い』(岩波書店、2005)等。



**西川克之**  
(にしかわ・かつゆき)

北海道大学大学院  
メディア・コミュニケーション研究院 教授

北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。現在の中心的な研究テーマは、英国を例にとって、産業化・機械化・都市化した日常生活から遊離するため自然や異質な文化を求めて出る旅と、合理的な余暇活動としての位置から商品化された大衆的娯楽へと転位させられていく観光との間のダイナミズムに、近代社会の一面を探ること。論文として「余暇と祝祭性——近代イギリスにおける大衆の余暇活動と社会統制」(北海道大学観光学高等研究センター、2009)など。



**西山徳明**  
(にしやま・のりあき)

北海道大学  
観光学高等研究センター 教授

1961年福岡市生まれ。京都大学工学部建築学科卒。京都大学博士(工学)。九州芸術工科大学・九州大学教授を経て現職。歴史的集落・町並み保存、ツーリズム開発、文化遺産まちづくり、観光分野の国際協力(エチオピア、ヨルダン、ペルー)、鳴砂保護など、国内外で地域還元型フィールド研究を展開。



**宮下雅年**  
(みやした・まさとし)

北海道大学大学院  
メディア・コミュニケーション研究院 教授

北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。北海道大学言語文化学部教授を経て、2007年からメディア・コミュニケーション研究院教授。主な論文は、(1)「旅するハローキティ:ご当地キティにおける結合・分離・非知・交渉」、石森秀三編著『大交流時代における観光創造』、2008年 (2)「King Kongツアー:『邪』神の人格化」、The Northern Review 第34号、2006年 (3)「権太の御曹司と南洋の少年王:北と南の植民地における支配の表象」、伊藤章・宮下雅年編『植民・移民・難民のメディア学』、2004年



**山田義裕**  
(やまだ・よしひろ)

北海道大学大学院  
メディア・コミュニケーション研究院 教授

最終学歴は、北海道大学大学院文学研究科博士課程。主な研究テーマは、コミュニケーションにおける視点の機能、情報化社会におけるコミュニケーション様式の変容、アフォーダンス理論のコミュニケーション研究への応用などです。最近の論文は、「生成文法と語用論」(The Northern Review 30, 2003)「他者と出会う」(メディア・コミュニケーション研究院・研究叢書70, 2008)「まなざしを贈る」(The Northern Review 36-37, 2009-2010)などです。



**山村高淑**  
(やまむら・たかよし)

北海道大学  
観光学高等研究センター 教授

北海道大学農学部卒、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。人と人、過去と現在を結ぶ仕組みとしてのツーリズムに着目。特にアニメ等の現代文化(ポピュラーカルチャー)をきっかけとした人の流動が、地域の伝統文化の再生・再評価に果たす可能性について、内外のフィールドワークを通じた研究を展開している。主著に『アニメ・マンガで地域振興』(東京法令出版)、『世界遺産と地域振興』(世界思想社)などがある。